

幼少期からの長期ステロイド使用後に就労期の再燃を経験した成人アトピーの経過 (27 歳)

症例 ID：001-20-KD | 記録日：2016 年 4 月 8 日

1. 診断・治療前経過

幼少期からアトピーがあり、5 歳頃には皮膚科で強いステロイドを処方されていました。小学生から中学生にかけては臀部の浸出液が下着に固まり、脱ぐ際に痛みが出る状態でした。

高校から大学では症状が軽くなりましたが、就職 3 年目に手、首、肘、膝、顔へ再び広がりました。ステロイドを使用しても一時的に落ち着いた後、以前より悪化する状態となりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期から手足や臀部などに強いステロイド外用薬を反復使用しました。就労期の再燃時にも使用しました。
製品名	不明です。
強度	かなり強い部類と記憶しています。
使用期間	幼少期から成人期まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
5 歳頃	ステロイド開始	皮膚科で強い外用ステロイドを使用しました。
小学生～中学生	来院前ピーク	臀部の浸出液が下着に固まり、脱ぐ際に痛みが出る状態でした。
高校～大学	小康状態	手指と首に軽い症状がある程度で、生活への大きな支障はありませんでした。
就職 3 年目	再燃	手、首、肘、膝、顔へ症状が広がりました。
約 3 年前	治療開始	松本医院を受診し、治療を開始しました。大きなリバウンドはありませんでした。
2016 年 4 月	経過後	顔、手、首などに一部症状は残りましたが、普通の皮膚に近い状態となり、IgE は 20,000 超から 3,000 未満へ低下しました。

4. ピーク時期

ピークは、小学生から中学生にかけて臀部の浸出液が強かった時期と、就職 3 年目に顔や四肢へ症状が広がった時期です。

5. 困りごと

- 臀部の浸出液が下着に固まり、脱ぐ際に強い痛みがありました。
- 就職後に症状が広がり、仕事のストレスと皮膚症状が重なりました。
- 軟膏の臭いが衣類に移り、職場で指摘を受けることがありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

項目	値・推移
IgE	受診時は 20,000 を超えていましたが、2016 年 4 月には 3,000 未満となりました。

7. 経過のまとめ

松本医院受診時が最も症状の強い状態で、その後は大きなリバウンドを伴わず、顔、手、首などの症状が少しずつ減りました。2016 年 4 月時点では一部に症状は残るものの、普通の皮膚に近い状態となり、IgE は 20,000 超から 3,000 未満へ低下しました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。